

大好きなお兄ちゃん
「しんちゃん」





「しんちゃん、できるじゃん！」
自閉症のしんちゃんは、
ちゃんと話ができないけれど、
毎日元気に仕事をして、ほめられます。
作業の内容は紙折り、はんこ押し、
部品はずしなどなど。
とにかく一生懸命に働き、
ほめられたらますますがんばります。

しんちゃんは
大人になって初めて働いた職場で、
突然大暴れして
仕事をやめてしまったことがあります。
職場の仲間に意思が伝えられず、
わからないことがあっても人に聞けず、
パニックになってしまったのです。
「早く」「だめ」ー。
周りのささいな声に反応して、
仲間も自分も傷つけてしまいました。





そんなしんちゃんを家族が支えます。

声かけはもちろん、家には、
次はお仕事、その次は休憩、
その次はごはんを食べる—など、
予定が大きく入ったカレンダーが
貼ってあります。

しんちゃんは
自分でもメモ帳で予定を確認するので、
次にやることがわかり、
自信もついて心が落ち着きました。

いまでは、
すっかり穏やかなしんちゃんです。

しんちゃんは4人きょうだい。
3番目がしんちゃん。
末っ子のなつちゃんは、
お兄ちゃんのしんちゃんが好き。
いつも一緒に遊んでいました。





なつちゃんは小さいころ、
しんちゃんの障がいのことが
よくわかりませんでした。
なつちゃんはお母さんにたずねました。
「しんちゃんは、
なぜ私のいうことを聞いてくれないの」。
自閉症の人は、
話しかけられた内容に合った返事が
できないことがあるのです。

お母さんは
「しんちゃんはせんたくものを干したり、
料理を手伝ったりしてくれるよね。
障がいはあるけどいろんなことが
できるのよ。うちの中で大事な子だよね」
と話しました。
「うんそうだね」。
なつちゃんはしんちゃんのことを
少しわかった気がしました。





でも、中学生になったなつちゃんは、
しんちゃんと一緒にいるのが
いやになりました。
「がいじ」ー。
しんちゃんのことをそう呼ぶ同級生たち
にからかわれたからです。
そのとき、なつちゃんは
「いじめにあう。どうしよう」
と自分のことを考えるのが精いっぱい。
あとから「なんでそんなことを言うの」と、
しんちゃんをかばえなかったことを
悲しく思いました。

その、なつちゃんも大人になりました。

ある日のこと、

まちで困っている人を見つけました。

周りの人は奇妙な動きを

するこの人に誰も近づきません。

なつちゃんは、

しんちゃんのことを思い出して

障がいのある人だと気づいたので、

自然にそっと寄って声をかけました。

しんちゃんを支える家族は

しんちゃんの一歩の理解者であり、

なつちゃんは

しんちゃんがお兄ちゃんだったからこそ

他人を気遣うことや

思いやるやさしい気持ちが

持てるようになりました。



「自閉症・発達障がい」について

障がいの困難さも目立つが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障がいです。養育環境ではなく脳の機能障がいによるもので、どんな能力に障がいがあるか、またどの程度なのかは人によってさまざまです。

★こんな配慮がうれしい！

- ◇障がいのため困難なことを「なぜできないのか」と見るのではなく、どうすると良いかを具体的に示す
- ◇「知らないこと」「初めてのこと」など変化への対応が苦手なので、絵や写真を使ってあらかじめ本人が納得できるように見通しを示す

あしがき

「発達障がいは一見して分かる障がいではないので、さまざまな誤解を持たれてしまうことがあるんです」。発達障がいを持つ子どもさんのお母さんが一様に口にした言葉だ。出会ったどのお母さんも笑顔でこれまでを振り返り、時には冗談を言いながら話してくれた方もいた。でもその内容は悩み、苦しみ、辛かったこともある。

発達障がいと向き合い、前向きに生活を送っているからこそ笑顔でいられるんだと思う。以前に比べ、発達障がいという言葉は浸透しているが、まだ理解していない人も多い。良き理解者が増えることが何より支えになることを痛感した。(石)